URL:https://nsphyogo.com/　E-mail:nsphyogo@portnet.ne.jp

週刊　新社会　号外　（1988年1月18日第三種郵便物認可）

No.667（改題627号）
2025年
6月11日（水）

新社会兵庫

週刊 新社会
発行所：新社会党
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960　FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部　神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行　購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

参院選へ

兵庫選挙区 社民党・きし文男さんを推薦

7月3日公示、20日投開票の日程が有力視されている第27回参議院選挙が迫っている。少数与党の自公政権をさらに追い詰め、政治を変えるチャンスとなる国政選挙だ。社民党にとっては政党要件の維持が懸かる選挙ともなるが、社民党兵庫県連はこのほど兵庫選挙区に公認候補としてきし（来住）文男さん（65）を擁立することを発表した。新社会党兵庫県本部は選挙協定を結び、きし文男さんの推薦を5月26日の第39回県本部委員会で決めた。

推薦決定したきし文男さんをはさんで梶川美佐男社会党県連代表（左）と粟原富夫新社会党県本部委員長（右）がファイティングポーズ＝5月26日、神戸市

きし文男さんは社民党兵庫県連国政対策委員長で、東海道新幹線の保線の仕事に携わってきた元「鉄道マン」だ（略歴は別掲）。国鉄分割民営化の際には国労という労働組合所属の故に不当な差別を受けるなど、過酷な労働環境の経験も持つ。

第39回県本部委員会後の参院選選対会議の場であいさつしたきし文男さんは、「JRの赤字ローカル線の廃止で地域社会が壊されていく。少子高齢化、過疎化が深刻な今こそ政治の責任で地域の交通を守らなければならないとの思いから国政への挑戦を決意した」と語った。また、自らの経験からも「職場・社会のパワハラをなくし、希望を運ぶ政治を実現していきたい」とも語った。

新社会党兵庫県本部は、社民党との協定にもとづき社民党の比例区から立候補を予定しているかい正康さん（新社会党市民運動委員長）の選挙準備に力を注いできたが、今後は兵庫選挙区のきし文男さんの支援もあわせて行い、地域から社民党票の掘り起こしを図ることで社民党候補の全体の押し上げをめざす。

【きし（来住）文男】
1960年姫路市生まれ。平安高校卒業後、1978年に国鉄・新幹線大阪保線所に入職、国鉄労働組合（国労）に加入。1987年、国鉄分割民営化に伴いJR東海に入社し、2025年退職。1985年、日本社会党に入党。社会民主党京都府連合幹事長などを経て、現在、社会民主党兵庫県連合国政対策委員長

比例区 かい正康・選挙区 きし文男 支持拡大で押し上げよう

かい正康さん・きし文男さんを支援する決起集会

参院選へ、元トラックドライバーのかい正康さん（比例区）と元鉄道マンのきし文男さん（兵庫選挙区）を支援する労働者決起集会が、ひょうごユニオンと全港湾神戸支部の呼びかけで開かれる。

●6月27日(金)18時30分～
●神戸市・中央区文化センター　1001、1002
●記念講演「労基法の改悪と労働組合の役割」森博行弁護士(大阪労働者弁護団)

今こそ護憲の議席拡大を

かい正康サポーターズ・須磨

新社会党須磨総支部は5月25日、「かい正康サポーターズ須磨の集い」を須磨区内で開き、約30人が参加した。

集会ではまず、党中央本部制作のビデオ「かい正康～普通に働く労働者」と、YouTubeのかい正康チャンネルから「政治を変えるぞ！かい正康～トラックドライバー～物流業界」を約20分間視聴した。

そのあと、岡崎ひろみ新社会党中央本部委員長が参院選を取り巻く情勢について報告し、かい正康さんの人柄や政策について訴えた。以下は訴えの一部。「失言で更迭された前農水相に代って就任した小泉新農水相は備蓄米を5キロ2千円で供給するというが、備蓄米の価格だけが問題ではない。毎日最高値を更新する米価の一方で時給10円とも言われる農家の厳しい実態を何とかしなければならない。また、防衛費が5年で43兆円にも上り、アメリカからどんどん武器・兵器を買っているのに、介護や福祉の予算は不十分で働く人が集まらない。今こそ護憲の党の勢力を増やしていかなくてはならない。社民党の政党要件維持は最低限のこと。7月の参院選で社民党比例区から立候補するかい正康さんとともに、兵庫選挙区から立候補する社民党のきし文男さん（5月26日に推薦決定）を押し上げてぜひ国会に」。

集会後、出席者からポスター掲示の承諾や選挙ハガキの協力などの申し出があった。（山本）

ビデオでかい正康さんの訴えを観たのち岡崎ひろみ新社会党中央本部委員長が情勢や政策などを報告＝5月25日、神戸市須磨区

ひょうご 碑物語 88

山本周五郎文学碑

（神戸市須磨区須磨寺町）

「源平ゆかりの古刹」として知られる須磨寺。境内には20数基の句碑や歌碑が点在する。

山本周五郎の文学碑もその1つで、デビュー作「須磨寺附近」を記念して、1984年4月に建立された。この作品は、周五郎が1923年9月1日の関東大震災で被災し、約5か月間、須磨区の離宮前道に避難したときの体験が軸になっている。石碑の裏には、「貧困と病気と絶望に沈んでる人たちのために幸ひと安息の恵まれるように」との周五郎の思いが刻まれているが、彼の代表的な作品である「樅の木は残った」や「青べか物語」、「赤ひげ診療譚」なども同様に、庶民の立場から武士や市井人の哀感を描いており、そのやさしいまなざしが人びとを魅了する。

周五郎は尋常小学校卒業後、東京・銀座の質店・山本周五郎商店で徒弟として働いていて大震災に遭うが、ペンネームはこの質店に由来する。

避難した神戸では雑誌編集記者として急場をしのぎ、東京に帰ってからは、質店主の援助のもとで創作活動を続けた。『文藝春秋』の懸賞に投稿した「須磨寺附近」が1924年4月号に掲載されたことを機に、時代小説の第一人者としての活躍が始まった。（鍋島）

山本周五郎のデビュー作「須磨寺附近」を記念して1984年４月に須磨寺境内に建立された碑

【メモ】山陽電車・須磨寺駅下車。北へ5分。

水脈

「米」という漢字が、別々の装いで、新聞やテレビで踊り狂っている。1つはアメリカを表し、いま1つは、豊葦原瑞穂の国（とよあしはらのみずほのくに）の昔に神様に授かったわが国の主食・米である▼アメリカが米と表記されるのは、幕末の亜米利加の漢字表記による。戦時中、敵性語が攻撃された時も、アメリカは日本人にとって大切な米と同じ漢字表記であった。「鬼畜米英」とわが国の主食は、同じ漢字であった。不思議なことである▼さて、わが国の主食コメである。米価高騰に対する国民の怒りが燃えさかろうとする時、油を注ぐ馬鹿な大臣の失言があって、大変な事態になった。更迭では済まず、発信力のある新大臣は5キロ2千円という「ハッタリ」に及んだ▼かつて「自民党をぶっ潰す」と言ったり、身内に刺客を放ったりした首相がいたが、そのDNAに頼らなければならなかったか。米価は安く安定したほうがいいが、ハッタリではその後が恐ろしい▼「行きは……帰りは恐い」という俚謡もある。米騒動が一歩一歩政治崩壊を進めているのは確かである。親子3代のハッタリに手を拍つわけにはいかない。参院選が真の米騒動になるよう、しっかりしたたかいの方針を固めよう。

5・3兵庫憲法集会　メインスピーチ

畠山澄子さん（ピースボート共同代表）のお話（要旨）

今年の「5・3兵庫憲法集会」でメインスピーカーとして登場した畠山澄子さん（ピースボート共同代表）のスピーチ要旨を、ご本人の了解を得て2回にわった掲載します。要約を含めて文章、見出しの責任はすべて編集部にあります。【編集部】

過去の戦争を見つめ、未来の平和をつくる

今週、ストックホルムにある国際平和研究所が世界の軍事費を発表した。2024年の世界の軍事費は2兆7180億ドル、日本円では389兆円。1988年の統計開始以来、最大の金額で、前年から9・4%上がっている。日本はどうか。前年から21%も防衛費が上がった。平和国家、平和主義を掲げている日本がいま世界で10番目に多い防衛費、つまり軍事費を使っている。

こうした軍事費が何に使われているかというと、もちろん、いわゆる防衛費、国を守るための予防的な安全保障に使っているが、でも一方で確実に軍事費はこの瞬間も人を殺すために使われている。ガザではこの2年間弱で死者が5万人を超えた。私のガザの友人も2021年のイスラエルによる爆撃で家が破壊された。その時、私たちはカンパを集め、家の再建にと彼に送ったが、その当時、彼が言ったことは「自分も難民としてガザで生まれ育ったが、せめて子どもには人生がフェアであるように。それだけが私の親としての願いなのだ」と。4年経った今、彼が言ったように、ガザの子どもたちにとって人生がフェアだと言えるのか、毎日考えているが、私の答えは否だ。

何が、私とガザにいる人たちを分かつのだろうかとよく考えるが、今のところ、私に答えはひとつしか見つかっていない。それは、私が日本で生まれ、彼はガザで生まれた、それだけだ。それしか理由が見つからないのなら、それは不条理だと私は思っている。

しかも、いま日本が平和的国家として解決していこうとするのではなく、軍事費をもっと上げようとする姿勢を見せているのが、残念でならない。

ウクライナも戦争が終わらない。死者が5万人近くなっている。

2年前、ピースボートで航行中に、同じ船に乗っているウクライナ人のクルーから兄が戦死したと言われた。平和のためとはいえ一方で世界一周の旅を楽しんでいるのに、一方で同僚の家族が戦地で死んでいる。これが今の世界だと思うとなんと耐えられない世界なんだろうと思う。どこに希望を見出していけばいいのか、はっきり言ってわからないと思うことが多くある。

分かりやすい言葉で説得力のあるスピーチをした畠山澄子さん＝5月3日、神戸市中央区

ピースボートから見た戦争と平和

私はいま、ピースボートの共同代表をしているが、ピースボートは3か月に1度、大きな船をチャーターして毎回1700人くらいの人が3カ月半の世界一周の旅を年3回する。先日も4月24日に新しい世界一周の旅が神戸港を出たばかり。

ピースボートは、1983年から顔の見える国際交流をテーマに地球一周の船旅を始めた。そのなかで見えてくる戦争と平和というものがいくつもあるが、ピースボートの始まりは、過去の戦争を見つめ、未来の平和を創るというスローガンのもとだった。1982年、日本では教科書問題が起きた。これまでは高校の歴史の教科書では、日中戦争で日本が中国に侵略したと書かれていたが、「中国に進出した」とより中立的な記載になるかもしれないということで、周辺国が反発し、抗議し、ある種の国際問題になった。その当時、学生たちが、自分たちの目で歴史を見ることが大切だ、あるいは、もし近くの国の人たちが怒っているのであればなぜ怒っているのか、自分たちで聞きにいこうと始めたのが地球一周の船旅だ。

だから、最初の頃はよくアジアの国を訪れた。1983年の船旅は上海を訪れ、そこから陸路で南京に行く旅だった。その当時、南京は今と違って何もない場所だった。現地の人が、行った人に「もしここで何が起きたのかが信じられないのならその辺の土を掘りかえしてごらん」と言ったそうだ。掘りかえしたら人の骨が出てくるそうだ。

その時、南京のツアーに参加した女性のひとりがのちに事務局に手紙を寄せてくれている。手紙には「私はおそらく平和運動を仕事にはしないで、ただふつうに生きていくと思う。でも南京で触れた戦争の痛みとか、戦争が起きたら何が起きてしまうのかということを一生忘れないで生きていくと思う」とあった。戦争というものを抽象的なものにしないで、何が起きるか、きちんとみつめることが私たちにとってすごく大切だと思う。

戦争で生まれる加害者と被害者の苦しみ

一方で、私たちが戦争の歴史と向き合うなかで感じてきたのは、加害者は、ときには被害者なんだということだ。南京の旅に出た時、戦争で現地の人を殺したという旧日本軍の兵士だった人がぜひ私も行って謝罪をしたいと乗船計画を立ててくれた。しかし、その方は港が近づくにつれて何も言えなくなってしまい、最終的には下船することができなかった。それほど、過去に自分がしたことと向き合うということに恐れがあったのだと思う。戦争という大きな構図の中に組み込まれてしまうと、被害者であっても、加害者であっても大きな苦しみを抱えるということを知った時に、私は改めて、戦争というものは起こしてはいけないと強く思うようになった。

それ以外にも世界の多くの戦争被害者の声を聞いてきた。今年の4月30日はベトナム戦争終結から50年だった。ピースボートは何度もベトナムを訪れているが、ベトナムでは、50年経った今でも、枯葉剤の被害に苦しんでいる人がいる。

ピースボートはカンボジアとも関わりを持っていて、カンボジアでは地雷を撤去するというプロジェクトを30年にもわたって続けている。今や世界ではカンボジアの内戦のことは過去の出来事だ。でもあの当時にカンボジアの地に埋められた400万個の地雷はいまだに撤去され切っていない。今でも遊びに行った子どもたちが、数は減ったが、足が無くなって帰ってくる、手が無くなって帰ってくる。畑を耕そうと思い、耕すと地雷が埋まっている。そういう被害が続いている。

カンボジアの人たちと地雷撤去のプロジェクトを一緒にやりながら思うのは、戦闘が終結しても戦争の傷はほんとうに長く残り続けるということだ。だから、今、世界の緊張が高まっている時に、すごく安易に、場合によっては軍事力、場合によっては戦争もという発言があるが、一度戦争が起きてしまうと、その被害は何十年にもわたって続くということを世界の人から教わってきた。

私自身の平和運動への関わりのきっかけ

つぎに、私自身がなぜピースボートに、あるいは核兵器廃絶、核軍縮の運動に関わっているのか、なぜ私がこの分野に関わるようになったのか、そのかかわりの中で何を見てきたのかを少しお話しさせていただく。

私が最初にピースボートに乗ったのは、19歳の時、高校を卒業してすぐだった。最近、テレビにも出るようになって「昔から平和のことに熱心だったんでしょうね」と言われるが、そうではない。最初にピースボートに乗ったのは、「通訳ボランティア、無料で世界一周できる」という、この文言に魅かれた。当時、ちょっとだけ留学して英語ができたので、経験もないのに通訳ボランティアをすれば、世界一周できると思って乗った。2008年のことだった。そのとき、ピースボートは25周年で、広島、長崎から100人の被爆者の方が招待されていた。ピースボートで世界一周しながら世界各地で被爆証言を届けようというのがこのプロジェクトだった。

私は埼玉で生まれ育ったが、それまで被爆者に会ったことがなかった。ピースボートに乗って初めて被爆者に会い、被爆証言を聞いた。

通訳だから、きちんとその言葉を受け止めて、英語で世界の人たちに伝えるという責任を負った。その時に聞いた被爆証言は、私が思っていたものとは全然違っていた。それまでの私は、教科書で習ったイメージで、原爆投下と言われれば、イメージするものはきのこ雲と原爆ドームだった。

でも6か月間、一緒に旅して、被爆者の人たちが一生懸命伝えてくれたのは、こんな話だった。自分の体がウジ虫まみれになって、それを何度も何度も母親にピンセットで取ってもらって、どれだけ申し訳なくて、どれだけ恥ずかしかったか。被爆者と言われて育ったけれども自分は小さすぎて原爆のことは記憶になかった。だけどいじめられ、「アンタに一生子どもは産めない」と言われたから、私は、結婚することも、子どもを産むことも最初から選ばなかった――という話で、今でも強く覚えている。何度も何度もガンになって、なぜこんなに家族に迷惑をかけなきゃいけないのだろう、と涙を流した被爆者のこともよく覚えている。やはり、きのこ雲と

【3面につづく】

高校生平和大使を招き学習会

約70人が参加

穴粟地区労と九条の会・穴粟が共催

宍粟地区労と九条の会・宍粟の共催による高校生平和大使を迎えた学習会が5月26日、宍粟防災センターで開かれ、約70人が参加した。

学習会では主催者あいさつに続き、ビデオで被爆者の体験談を視聴した後、第27代高校生平和大使兵庫メンバーの松尾仁菜さんから「私が高校生平和大使として見えた景色」と題した問題提起が行われた。

松尾さんはまず、高校生平和大使のことを説明した後、「平和活動は能動的（署名活動等）にも、受動的（被爆者の実相を知ること等）にも活動することが必要だ」と自身の経験を踏まえた強い思いを報告。その上で、「平和とは当たり前のことではなく向き合い続けること。触れにくい話題に目を向け、素直な疑問を持つこと」だと訴えた。そして、「ビリョクだけどムリョクじゃない。高校生が平和について語り合える環境を作りたい」と決意を述べて提起を結んだ。

参加者からは、「強い意志と多様な視点で平和に対し向き合っている姿に感銘を受けた」など、彼女の活動を評価し共鳴する意見が多く寄せられた。年代を超え、幅広く交流を深め、地道に運動を継続する重要性を実感することができた学習会であった。

（志水）

第27代高校生平和大使兵庫の松尾仁菜さんが問題定義＝5月26日、穴粟市

映画で複合差別を学ぶ

「県ネット」が総会とフォーラム

兵庫県パート・ユニオンネットワーク（略称・県ネット）は5月25日、神戸市内で2025年度定期総会とパート・フォーラムを開いた。県ネットは、自治労県本部臨時非常勤職員等評議会（臨職評）とひょうごユニオンに結集する地域ユニオンなどで構成され、「どこかで誰かが声を上げれば、みんなで駆けつける」をモットーに30年以上活動してきた組織。

総会では、塚原久雄代表委員が主催者あいさつで「非正規労働者はまともに暮らせない低賃金で、ダブルやトリプルワーク、雇用によらない働き方など厳しさが増している。賃上げ5％超えの春闘も全体の生活改善につながっていない。最賃1500円の実現に向け非正規春闘に取り組もう」と訴えた。

議案提案では非正規・パート春闘の取り組みが強調され、有期雇用の撤廃、解雇・雇止めの阻止、均等待遇の実現などを求めるパート春闘に取り組むとの運動方針案などすべての議案が承認された。

パート・フォーラムでは、在日朝鮮人と女性という複合差別を裁判で闘う女性の葛藤と成長を描いたドキュメンタリー映画『もっと真ん中で』を鑑賞。その後は、映画の感想や非正規差別を許さない取り組み、郵政職場で多発する自死への取り組みなどの発言がつづいた。（菊地）

総会では非正規・パート春闘の取り組みの意義が強調された＝5月25日、神戸市中央区

【2面からのつづき】

か原爆ドームではとらえ切れない、きのこ雲の下で起きたことがあるのだと感じるようになった。

その旅の終わりに、今はもう亡くなってしまった被爆者が私に言った。「自分は長崎でがんばっている。その理由は長崎を最後の被爆地にしたいからだ。二度と核兵器が使われることがあってはいけないと思うから頑張っているが、けれども仮に100年、核兵器が使われないことを自分の目標にしても2045年には自分は生きていないと思うから、あなたがたのような人が頑張ってほしいと思っている」という話だった。

その時まで、いい話を聞いたなと思いながら地球一周の旅を終えようとしていたが、その被爆者の方にそう言われて、カバン持ちでもなんでもいい、核兵器のない世界、戦争のない世界のために、何か私にできることがあればがんばってみたいなと思うようになって、今に至っている。

15年にわたって被爆者の人たちと世界一周の旅をしてきて、多くの戦争の被害者とつながってきた。そのなかで、教わったことがいろいろある。

そのひとつは、私たちが戦争を語る時に被害だけでなく侵略など加害のこともセットで話さなければ国際的な説得力を持たないということだ。

【次号へつづく】

教員の働き方問題等を議論

兵庫教育労働運動研究会が総会

兵庫教育労働運動研究会（教労研）は、5月18日、神戸市内で総会と学習交流会を開いた。

この間、教労研が取り上げてきたのは、教員不足の原因となっている教員の働き方問題だ。「定額働かせ放題」といわれた給特法は、結局残業代の代わりとなる教育調整額を4％から10％に上げるという付け焼刃的な改善しかなされず、人を増やし仕事量を減らすことをしないと抜本的な改善にはならない。

中学校の部活問題もある。神戸市では来年9月から部活動の地域移行が実施される。市教委が運営団体を公募したところ、526件の応募があったという。しかし、地域によってその数や内容に差があり、やりたくても参加できない生徒も出てくる。そこをどうするのか。

教育内容についても問題にしてきた。「GIGAスクール」のもと、1人1台のタブレットを与えて教育のIT化が進められているが、IT教育の先進国スウェーデンでは、その弊害が表面化し見直しが進められている。経産省が進めるこの流れを日本も見直すべきだ。

また、10年ごとの学習指導要領改定の時期にあたり、その方向性がいま議論されている。不登校、外国人児童生徒、発達障がいの可能性のある児童生徒が増加する中、教える内容は増やされ授業時間数は限界まで来ている。学校に本当の意味でのゆとりを作る指導要領改定でなければならない。

教労研は9月7日に「教育セミナー」を計画している。教員以外の方にもぜひ来ていただき、今の学校教育について考えてもらいたい。（渡辺）

地域ユニオン あちこち あれこれ 453

パワハラが最多の労働相談

全国の監督署などに寄せられた2023年度の総合労働相談件数は、4年連続で120万件を超え、高止まりしている。

とりわけ「いじめ・嫌がらせ」の相談件数は6万件を超え、12年連続で最多を占める。

ユニオンに寄せられる労働相談でもパワハラ関連が多い。昨今、人手不足が叫ばれながらも、職場からの排除を目的としたパワハラが蔓延するのはなぜだろう。

いじめなどのターゲットとなる人の多くは、おとなしい、口数が少ない、比較的仕事がゆっくりしている、ミスが多いなどの共通する点があるように思う。ひと昔前であれば、どこの職場にも1人や2人はいた。そして、「しゃあないなぁ」と言ってみんなでフォローしていた。いま、そんな労働者が許せない時代になっているのだ。最大の原因は、ひとりひとりの仕事量と責任の増大だ。さらに、待遇に対する不満もくすぶる。

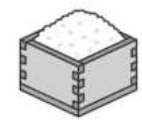
非正規労働者が雇用労働者の4割を占め、新入社員に仕事を教える非正規労働者もいる。今年の新卒者は初任給30万超えが普通になった。仕事を知らない新入社員に、最賃で働く非正規労働者がどんな気持ちで仕事を教えるか、少し考えただけでもわかることだ。しかし、そんなことは問題だと正社員の労働組合は、考えない。その結果、せっかく正社員として就職したのにすぐに退職してしまう社員も出ている。

先日、春闘交渉を前に会社が事務所にきた。賃上げに評価制度を導入したいと言う。年間20日も欠勤する労働者がいるという。それがユニオンの組合員であった。過去に、処分されそうになった組合員をユニオンが「かばった」ことから、会社が組合員に対して厳しく言えなくなったと言う。どの程度の問題であったかは今となればわからないが、おそらく最も弱い労働者が働き続けられる職場をとの思いで言ったのであろう。それを組合員が勘違いしてわがまま何でもOKと受け止めたのだと思う。その結果、多くの組合員が離れていった。

職場はどうしようもないほど矛盾にあふれている。相手を思いやり、労働者が団結し、自分だけでなくみんながよくなる職場づくりを考えるようになれば、いじめや嫌がらせ、パワハラはなくなるのだ。やはり労働組合が問われている。

塚原久雄（武庫川ユニオン書記長）

新米に切り替わるまでの米取り扱いについて



政府による備蓄米（令和３年、４年産）の放出が、遅い・高いと非難の声が相次いで、新しい大臣の旗振りによって、５㌔2,000円程度で市場に出回ると報道されています。これによって米全体の価格の安定と供給が促されれば良いのですが、米を取り巻く状況は変わっていません。何より、一昨年不作のために見込み量の８割弱程度しかなかった収穫量が響き、米に関係する業界間で取り合いが続いています。今年の新米は、早い所で８月の終わり頃となります。品薄は進んでいるため、ぴぃぷるでは８月の新米が入荷できるまでの間、次のように取り扱い致します。なお、新規の購入や増量のご注文はお断りしています。ご理解をお願い致します。

6月配達分について　でかんしょ米　5㌔の取り扱いありません。　3㌔　2,280円
毎月５㌔１袋ご購入のお客様は３㌔１袋に、５㌔２袋の方は３㌔２袋になります。
ささや米　5㌔　3,500円　玄米　5㌔　3,300円

7月配達分について　入荷出来ず、でかんしょ米、ささや米とも、取り扱いありません。

8月配達分について　8/30(土)から米の取り扱いを再開します。

(有)ぴぃぷる
電話/ファックス　078(531)0135

おんなの目

STOP ジェノサイド

「ガザの行動について書いて」と言われることが時々ある。実はそのたびに困惑したり違和感を持ったりしていた。なぜ？　私はパレスチナのこと〝だけ〟をやっているわけではないし、毎日のように行動しているわけでもないし、行動を主催しているわけでもないのに。しかし今回、自分の中でわかったことがある。執筆を依頼してくれる人（あるいは団体）は、パレスチナのこと、あるいはパレスチナ連帯の行動を非常に重要視しているということだと。そして、特別な人たちだけではなく、自分のようなごく普通の人の普通の行動〝も〟、大事だということ。ごく普通の人の普通の行動を知ってもらうことによって、これなら自分も、と身近に感じて動き出す人がいるかもしれない。

私は正直、パレスチナの問題についてはほとんど知識がなかったし、実は今でもさほどあるわけではない。行動している人たちは本を読んだり講演会に行ったりしてとても勉強している。だが、パレスチナとイスラエルの関係や歴史を熟知しなければ行動してはいけないのではないか、と躊躇するのは大間違いだ。私は「ジェノサイドを許さない」というその一点だけでもいいと思っている。

２０２３年10月以降、神戸では疋田香澄さん主催のパレスチナの暴力に反対するスタンディングが隔週（当初は毎週）の日曜日に行われている。毎回30人から40人が集まり、プラカードを掲げたり、マイクアピールをしたり、チラシを配ったりしながら声を上げている。年齢層も10代から80代までと幅広く、赤ちゃんを抱っこした人、犬を連れた人などさまざまだ。スタンディングをしていると嫌がらせを受けたり、冷笑を浴びせられたりすることもある。主催者の疋田さんはイスラエル人シオニストに暴力を受け、全治２週間（実際は現在も完治していない）の怪我を負った。参加者たちは日々入ってくるパレスチナの悲惨な状況（爆撃の様子、生きたまま火に焼かれる人々、人為的飢餓によってやせ細って餓死していく子どもたち）に心を蝕まれそうになっている上に、ボイコットの話などから友人や周囲の人に心無い言葉を浴びせられ、関係を断たざるを得なくなることもある。このようにダメージを負いながらも行動を続けているのは、ひとえにパレスチナの市民が、子どもたちが、虐殺されていくのを黙って見てはいられない、という強い思いからである。

疋田さんのスタンディングが無い週の日曜日は、有志の４、５人のメンバーで元町駅前の巨大なベンチにプラカードを並べたり持ったりして座る「シッティング」をしている。私は個人でもどこかに出かける時は「STOP GAZA GENOCIDE」と記したプラカードを持って歩いているし、たまにはさまざまな場所で短時間の１人サイレント・スタンディングをしたりもする。その際はうなずいてくれたり、サムズアップしてくれたりの反応がある。声をかけてくれる人とはボイコットの情報交換や、首相官邸や外務省に意見を送ることを勧めたりする。反応があることが嬉しいのは、自分の行為が認められたと思うからではない。パレスチナのことを思い、イスラエルの虐殺に反対する人がそこに確実に存在することが可視化されてわかるからである。そしてまた行動を続けようという元気が出る。

（小田悦代）

常任委や支部から活発な報告

アイ女性会議ひょうごが大会

休憩時間には会員の落語で笑い疲れをほぐす一幕も＝５月18日、神戸市長田区

アイ女性会議ひょうごは5月18日、神戸市の長田区文化センターで第64回定期大会を開いた。

冒頭、日米軍事一体化の進行の問題や、非正規労働者として低賃金に押しとどめられている女性の労働実態への切込みがないままの「１０３万円の壁」論議の問題、さらに法治主義や民主主義が問われている斎藤知事問題などの情勢を確認。

その後は、各支部や常任委員会の活動について活発な報告が続いた。①年４回発行を続け活動の指針ともなっている機関誌「ウーマンズカレント」の取り組み、②毎月チラシを自前で作成し元町駅頭で続けてきた平和街頭行動、③毎年恒例の取り組みとなっている「12・8」に因んだ「平和のつどい」の取り組み、④王子公園再整備計画をめぐり、住民訴訟でも対抗するなどの粘り強い取り組みへの関わりが続いている灘支部の活動、⑤アイ女性会議のメンバーも中心となって介護施設や事業所の現状を足を運んで調査し、介護労働者の処遇改善に向けて神戸市や県に対して請願活動を取り組んできたこと、⑥他国に比べて緩い基準で収められようとしているＰＦＡＳ問題への取り組み……。それぞれ取り組みは違っても報告し合い、共有し、できるかたちで支援し合うアイ女性会議としてのつながりが土台のところでしっかり生きていることが実感できる報告だった。

昼休みは、会員の都亭アロハさんによる「選択的夫婦別姓」がテーマの落語で笑い、また、討議の合間にはエクササイズ指導者の会員によるストレッチタイムなどで疲れをほぐした。

恒例の手提げバッグ、ブックカバー、手甲、キーホルダーなどの手作り物販のほか、たまねぎも並んで完売。活動資金のカンパとなった。

（丸山）

インフォメーション

■６・25アジア労働者交流集会in神戸～韓国から労働運動活動家を迎えて～

◎６月25日（水）14時
◎神戸学生青年センター・ウエスト１００（阪急六甲駅を南に出たすぐの道を西に１００ｍ）
◎参加費１０００円
◎主催＝アジア労働者交流集会in神戸実行委員会（神戸学生青年センター、兵庫社会労働運動センター、自立労連神戸支部
aiui@pastel.ocn.ne.jp）

■人権と民主主義をとりもどす県民のつどい～デマにまどわされずに～

◎６月29日（日）14時～17時
◎神戸市立婦人会館・５階「さくら」（神戸駅北へ５分）
◎内容＝①元斎藤支持者のお話「なぜ私は斎藤知事を応援し、なぜそれをやめたか」②松本誠さんのお話「漂流する兵庫県政の深層」③県会議員のお話（依頼中）「兵庫県議会の現状」（仮）④全体討論「斎藤知事の辞職と新たな兵庫県政実現のために　私たちは何をするか」
◎定員１８０人（先着順）
◎資料代５００円
◎主催＝兵庫県知事選挙を振り返る市民の会０９０・４２８８・２１２１
oniyama24@outlook.jp

シネマランド

太陽（ティダ）の運命

平和を求め、理不尽に抗い、信念に生きた２人

今年は戦後80年、沖縄施政権変換から53年を数える。

太平洋戦争末期の過酷な地上戦のあと沖縄にやって来たのは、平和でなく、27年に及ぶ軍事占領だった。１９７２年の本土復帰後は、沖縄の米軍統治と引き換えに復興の道をひた走った。本土との生活格差を如何に縮め、本来の沖縄の姿を取り戻すか、その道筋は如何にあるべきか。

その課題の中で、常に「保守か革新か」「基地か経済か」の道を迫られてきた沖縄の象徴が県知事である。その存在そのものが、戦中・戦後から苦難の道を歩み続ける沖縄の現代史を体現している。

本作は、施政権返還後、沖縄県知事８人のうち、とくに第４代知事・大田昌秀（任期１９９０年～１９９８年）、第７代知事・翁長雄志（任期２０１４年～２０１８年）に焦点をしぼり、革新、保守の政治的立場から互いに反目しながらも、国と激しく対峙した沖縄県政を描く。

監督の佐古忠彦はこれまで沖縄に四半世紀以上通い、多くの県民との交流を通じ、沖縄が抱える問題点を鋭く発信してきた。

代表作では『米軍が最も恐れた男　その名は、カメジロー』（２０１７年）、『生きろ　島田叡戦中最後の沖縄県知事』（２０２１年）が挙げられる。

歴代８人の知事は、ことごとく米軍基地問題に翻弄されてきた。53年前のスローガンは「核抜き・本土並み」「基地のない平和」の実現であった。

しかし、現在に至るまで、国土面積の０・６％にすぎない沖縄に在日米軍施設の70％が集中する「構造的差別」が横たわっている。

とくに日米地位協定、米兵少女暴行事件（１９９５年）、普天間基地移設・辺野古新基地建設問題、教科書検定問題（２００７年）に正面から向き合い、日米両政府に太田、翁長は不屈の闘いを挑んだ。２人に関わった17人の証言からこの国の今が映し出される。

映像の背景に流れる「艦砲ぬ喰ぇー残さー」は１９７５年に沖縄で大ヒットした沖縄民謡である。作詞・作曲は比嘉恒敏で自身の過酷な沖縄戦体験者としての思いが綴られている。

米軍艦船が沖縄に射ち込んだ艦砲は４万５千発、ロケット弾３万３千発で、文字通り「鉄の雨」と表現される地獄図が展開された。歌詞の中には、戦中・戦後の沖縄戦への思いと、艦砲射撃によって犠牲になった人々への哀悼と、悲惨な沖縄戦を生き残った〝うちなーんちゅ〟の、戦争を恨み平和を願う心情が込められている。歌碑が読谷村楚辺に置かれている。

ナレーションは、佐古監督作品４本を担当した山根基世さん（元ＮＨＫ）で、「沖縄での不条理に他人事のように黙っている私たちは？」と問いかける。

ティダ、それは沖縄の方言で太陽を意味し、その昔「リーダー＝首長」を表した言葉だった。

（大坪）

監督＝佐古忠彦／２０２５年／日本／１２９分